

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 2 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00709

研究課題名（和文）地域連携にもとづく秋田藩家蔵文書の史料学的研究

研究課題名（英文）A study of Akitahan Kazomonjyo based on regional cooperation

研究代表者

金子 拓 (kaneko, hiraku)

東京大学・史料編纂所・准教授

研究者番号：10302655

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,700,000円

研究成果の概要（和文）：秋田県公文書館・千秋文庫にて調査をおこない、撮影した史料のデジタル画像に目録を付し、一部をデータベースより公開した。

また、代表者・研究分担者が個々の関心から取り組んだ『秋田藩家蔵文書』および佐竹氏に関わる研究成果については、『秋田藩家蔵文書』収録文書と関わる秋田県および茨城県において、研究報告のための講座を企画した。このうち秋田県では、秋田県生涯学習センターの講座（スマートカレッジ）において地域の人々に対する成果公開をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『秋田藩家蔵文書』に収録されている文書について、画像に加え、原本情報や写本の情報などを登録し公開したことは、中世から近世にかけての常陸・出羽地域の研究の重要な基礎史料となると期待される。また、これまで全体像が一般には知られていなかった史料群である千秋文庫所蔵の史料を撮影し、公開をおこなったことで、秋田県公文書館所蔵史料と一体的に研究を進めるための環境を構築することができた。これらの成果により、今後佐竹氏や秋田藩の研究が進展するものと思われる。

研究成果の概要（英文）：We did a survey at the Akita Archives and the Sensyu Bunko. we added a catalog to the digital images of the historical materials we took, and published some of them from the database.

About the research results related to Satake family and the Akitahan Kazomonjyo that we worked on from individual interests planned a course for research reports. In Akita Prefecture, the results were disclosed to the local people in the course (smart college) of the Akita Prefectural Lifelong Learning Center.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世史 古文書学 史料学 秋田藩家蔵文書 佐竹氏 千秋文庫

1. 研究開始当初の背景

申請以前に研究代表者が様々な科研に参加して遂行してきた秋田県公文書館との連携による研究の過程で、同館が所蔵する『秋田藩家蔵文書』をはじめとする秋田藩収集・書写の古文書集を調査し、その成果を所蔵機関に還元する試みをおこなってきた。

そのなかで、近世秋田藩における修史事業の中核的成果である『秋田藩家蔵文書』の総合的な研究がまだ十分になされておらず、その存在意義が地元でもあまり知られていないという問題意識を抱いた。これは、『秋田藩家蔵文書』に収められている文書が、中世から近世に至る広い時代、また秋田(東北)・茨城(北関東)など広い地域にまたがっているため、個別的な研究しかなされていないことに起因していると考えた。

2. 研究の目的

本研究では、上記の背景を受け、代表者が所属する東京大学史料編纂所において既撮影の画像データなどをもとに、『家蔵文書』収録文書、およびそれと密接に関係する一般財団法人千秋文庫所蔵『佐竹文書』『御文書』収録文書(以下では『家蔵文書』に代表させる)、および秋田藩の修史事業に関わる関連文書の調査研究、およびそれらの史料性格の研究を行なう『家蔵文書』の総合的研究を目指し、そのうえで成果を史料編纂所データベースへ搭載(さらに活字史料集の刊行)するによる研究基盤構築を目標とし、関係地域の研究者・所蔵機関と連携しながら、成果を地域に還元するためにはどのような研究を行ない、公開のための工夫をどうすればいいのかを追究することにした。

3. 研究の方法

本研究は、史料編纂所の日本古文書ユニオンカタログデータベースの成果をふまえ、『秋田藩家蔵文書』収録文書と、そのもとになった原本が現在も存在するならばその情報、およびそれらを収録する既存の活字刊本の情報に加え、それらの文書を用いた研究文献の情報を統合させ、さらに文書釈文情報も加えて、コミュニティに“古文書の戸籍”を明示するという目的がある。

“古文書の戸籍”とは、その古文書がいつ作られ、どのように伝来し、どのような研究がなされてきたのかという総合的な情報の意味であり、このような統合情報を仮に“戸籍”、という語を用い、データベース上で一元的に公開しようとする点は全く新しい試みである。

史料編纂所のデータベースシステムに即して言えば、モノクロフィルムからのスキャン画像や撮影されたデジタル画像をもとにした目録データと本文データ、さらに各自治体史や研究など史料集ですでに紹介されている目録など、日本古文書ユニオンカタログデータベース上の情報と、別に作成した研究論文情報をリンクさせて表示する。こうした試みは、すでに史料編纂所データベースのなかの正倉院文書マルチ支援データベースにおいて実現しているものであるが、本研究でもこのような試みを中近世の文書群である『秋田藩家蔵文書』とその関連文書においても実現しようとするものである。

4. 研究成果

上記の目的・方法のもとに、秋田県公文書館・千秋文庫にて調査をおこない、撮影した史料のデジタル画像に目録を付し、一部をデータベースより公開した。この過程で『秋田藩家蔵文書』の本文情報も日本古文書ユニオンカタログデータベースから公開している。研究文献の情報蓄積と合わせ、目指していた“古文書の戸籍”の全体像を構築するまでは至らなかったが、『秋田藩家蔵文書』に収められている文書の原本や活字刊本などの情報はおよそ公開できている。

また、代表者・研究分担者が個々の関心から取り組んだ『秋田藩家蔵文書』および佐竹氏に関わる研究成果については、『秋田藩家蔵文書』収録文書と関わる秋田県および茨城県において、研究報告のための講座を企画した。このうち秋田県では、秋田県生涯学習センターの講座(スマートカレッジ)において地域の人々に対する成果公開を果たすことができたものの、茨城県ではコロナウィルスの感染拡大により講座が中止となり、果たすことができなかった。

コロナウィルスの感染拡大は、講座の開催だけでなく、調査の遂行にも大きな影響を及ぼした。東京より秋田県内に調査に赴くことが困難となり、旅費の一部を翌年ないし翌々年に繰越さざるを得なかった。結果的に繰越された研究期間内においても秋田県への調査は執行ができなかった。

ただし、この旅費のかわりに、『秋田藩家蔵文書』に収められている文書のうち、原本の所在がわからなくなっていた文書(福田文書)の原本購入費に充てることができた。“古文書の戸籍”の公開を目指す本研究にとって、できるかぎり『秋田藩家蔵文書』収録文書の原本の所在情報

を確認することは重要な成果であり、しかもそれを購入し、史料編纂所において収蔵することとなったので、研究期間は終了するが、今後はこの文書群の整理を進め、釈文や文書の歴史的背景を明らかにするとともに、データベースによる公開を目指し、研究を継続させるつもりである。

また、ほかには、秋田藩の修史事業を担当した奉行である岡本元朝の日記七冊（秋田県公文書館より刊行）を購入した。これを分析することで、科研期間内に収集した史料について、期間終了後も研究を継続する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 金子拓	4. 巻 -
2. 論文標題 戦功書上・家譜および「地域的軍記」から見る大坂の陣の佐竹家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2016～18年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）研究成果報告書『戦国軍記・合戦図屏風と古文書・古記録をめぐる学際的研究』	6. 最初と最後の頁 125-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木下聡	4. 巻 1
2. 論文標題 中世における諸階層の官途受容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中世学研究 幻想の京都モデル	6. 最初と最後の頁 155-173
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 及川亘	4. 巻 29
2. 論文標題 佐竹義宣の鷹狩と本多正純事件	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 32-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 及川亘	4. 巻 -
2. 論文標題 現場監督する大名 多久家文書にみる公儀普請	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 近世前期の公儀軍役負担と大名家	6. 最初と最後の頁 11-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 巻 4
2. 論文標題 板橋宿の研究動向とフィールドワーク授業の実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 淑徳大学人文学部 研究論集	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下聡	4. 巻 44
2. 論文標題 中世後期の武士の官途認識と選択	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報中世史研究	6. 最初と最後の頁 39-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子宅	4. 巻 31
2. 論文標題 太田牛一『信長記』振仮名覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 14-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木下聡	4. 巻 880
2. 論文標題 石丸利光の発給文書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 65-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋修	4. 巻 9
2. 論文標題 笠間時朝論序説 補遺－西大寺觀尊と「笠間禅尼」－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 常総中世史研究	6. 最初と最後の頁 98-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 武功書上・家譜と『地域的軍記』の成立 大坂の陣における佐竹氏の場合
3. 学会等名 東京大学史料編纂所国際研究集会「合戦のイメージから実像を考える」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木下聡
2. 発表標題 中世後期の武士の官途認識と選択
3. 学会等名 中世史研究会シンポジウム「武家官位から中世を問い直す」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 『信長公記』諸本における陽明文庫所蔵本の位置づけ
3. 学会等名 陽明文庫設立80周年記念特別研究集会 最新の研究成果の報告と陽明文庫の過去と未来（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋典幸
2. 発表標題 鎌倉幕府軍事編成の再検討
3. 学会等名 日本史研究会2019年9月例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 賀茂別雷神社の算用状から何がわかるのかー歴史学と会計学からー
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子拓
2. 発表標題 松永久秀の室と家臣
3. 学会等名 東京大学ヒューマニティーズセンター・オープンセミナー
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 321
3. 書名 長篠合戦の史料学 いくさの記憶	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2018年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 295
3. 書名 鳥居強右衛門 語り継がれる武士の魂	

1. 著者名 高橋典幸（五味文彦と共編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 中世史講義	

1. 著者名 木下聡	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戦国史研究会	5. 総ページ数 124
3. 書名 戦国史研究史料集 7 足利義視・足利義植文書集	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 112
3. 書名 実像に迫る 長篠の戦い 信長が打ち砕いた勝頼の“覇権”	

1. 著者名 金子拓	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 234
3. 書名 信長家臣明智光秀	

1. 著者名 木下聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 314
3. 書名 斎藤氏四代一人天を守護し、仏想を伝えず	

1. 著者名 高橋修	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 528
3. 書名 戦国合戦図屏風の歴史学	

1. 著者名 高橋典幸（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 274
3. 書名 中世史講義 戦乱篇	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高橋 典幸 (Takahashi Noriyuki) (10292799)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	渡辺 英夫 (Watanabe Hideo) (20191786)	秋田大学・教育文化学部・教授 (11401)	
研究分担者	柳原 敏昭 (Yanagihara Toshiaki) (30230270)	東北大学・文学研究科・教授 (11301)	
研究分担者	高橋 修 (Takahashi Osamu) (40334007)	茨城大学・人文社会科学部・教授 (12101)	
研究分担者	木下 聡 (Kinoshita Satoshi) (40778651)	東洋大学・文学部・准教授 (32663)	
研究分担者	遠藤 ゆり子 (Endou Yuriko) (70612787)	淑徳大学・人文学部・准教授 (32501)	
研究分担者	佐々木 倫朗 (Sasaki Michirou) (80280907)	大正大学・文学部・教授 (32635)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	遠藤 基郎 (Endou Motoo) (40251475)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
連携研究者	及川 亘 (Oikawa Wataru) (70282530)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
連携研究者	黒嶋 敏 (Kuroshima Satoru) (90323659)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
連携研究者	遠藤 珠紀 (Eodou Tamaki) (10431800)	東京大学・史料編纂所・准教授 (12601)	
連携研究者	林 晃弘 (Hayashi Akihiro) (10719272)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	
連携研究者	畑山 周平 (Hatayama Syuhei) (30710503)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------